

# 保育所送迎の実態と事業所内保育所のあり方に関する研究\*

## Commuting and Day-Care Centers at Workplaces\*

橋本まり\*\*・大森宣暁\*\*\*・高見淳史\*\*\*\*・原田昇\*\*\*\*\*

By Mari HASHIMOTO\*\*・Nobuaki OHMORI\*\*\*・Kiyoshi TAKAMI\*\*\*\*・Noboru HARATA\*\*\*\*\*

### 1. 研究の背景と目的

我が国は少子化が深刻化している。その要因として、結婚行動と出産行動の変化が挙げられるが、このうち出産行動の変化（産み控え）の一因となっているのが、「入所を希望する認可保育所を運営・管轄する市区町村に入所申請を提出したが、抽選の結果入所を認められなかった児童」すなわち待機児童の増加である。特に東京都心部に集中しており、2009年現在、全待機児童数の約3割が東京在住とされる。経済的理由、もしくは自己実現の為に就業を希望する女性が増加する中、保育所の整備が追い付かず、待機児童数は年々増加する一方である。

本研究では、待機児童への対策の一つとして、国や自治体による保育所の設置を待たず、一般企業が独自に、自社社員の為に設置した「事業所内保育所」に着目する。東京都心部を対象に、事業所内保育所へのヒアリング調査、事業所内保育所利用者・非利用者へのアンケート調査を通して、事業所内保育所の現状と課題を明らかにし、今後のあり方を考察する。

### 2. 事業所内保育所の実態と課題

#### (1) 事業所内保育所とは

事業所内保育所とは、企業等が従業員向けに自社内に設置した保育施設のことをいう。事業所内保育所そのものの歴史は短くはないものの、特に一般企業が設置するものに関しては近年特に増加してきた為、それらに特化した研究はまだ数少ない。的場<sup>1)</sup>は、事業所内保育所利用者に対するアンケート調査から、「地元の認可保育

所に入れなかったという次善の策としてではなく、勤務先の保育所だから、という積極的な理由で利用している人が多い」一方で、子どもが病気の際の看護休暇制度や病児保育、利用時間の延長を望む声が多いことを明らかにしている。久木元<sup>2)</sup>は、大都市都心部にある事業所内保育所利用者に対しアンケート調査を行い、その利用実態と問題点を指摘した。利用者は勤務先から30分以内の範囲に自宅があり、通勤ラッシュの時間帯を回避する工夫をしているが、都心部に自宅を持つための経済的負担、子連れで鉄道に乗車する精神的負担が大きいこと、また利用者数の停滞により子どもの社会性が育ちにくい環境となっていることが、事業所内保育所の魅力を低下させる要因となっていることを指摘している。しかし、いずれの研究も、現在一般の保育所を利用している者が事業所内保育所に対しどのような意識を持つのかについての言及はない。

本研究では、久木元<sup>2)</sup>の分類を参考に、事業所内保育所を、①病院併設型、②パート女性向け職住近接型、③大企業・郊外部立地型、④大企業・都心部立地型の4つに分類した上で、このうち通勤時の保育所送迎時の負担が最も大きいと考えられる、④大企業・都心部立地型の保育所に着目する。

#### (2) 事業所内保育所の利点・欠点

既存文献<sup>1)4)</sup>レビューと東京都心に立地する複数の事業所内保育所へのヒアリング調査の結果から、事業所内保育所の利点・欠点を以下に整理する。事業所内保育所の利用者にとってのメリットの1つ目は、子どもが近くにいるという安心感が得られることである。特に低年齢児は頻繁に発熱し、母親も特に第一子の場合には育児に慣れていない為に、子どもと離れる時間を不安に感じやすい。昼休み等のちょっとした合間に様子を見に行くことができることは大きな利点となる。

2つ目は、勤務先に保育所があるため、送迎の時間をあまり気にしなくてよいことである。自宅近くの保育所に預けている場合、保育終了時刻と、勤務先から保育所までの移動時間を考えて、とすれば仕事を中断して帰路につかねばならない。その点、事業所内保育所は、保育終了時刻間際まで仕事に従事することができる。ま

\*キーワード：子育て、保育所送迎、事業所内保育所

\*\*非会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻修士課程

\*\*\*正会員、博士（工学）、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻

(東京都文京区本郷7-3-1、nobuaki@ut.t.u-tokyo.ac.jp)

\*\*\*\*正会員、博士（工学）、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻

\*\*\*\*\*正会員、工博、東京大学大学院工学系研究科都市工学専

た、事業所内保育所の利用者同士は勤務先が同一であることから、少なからず同じ悩みを抱えながら子育て就労をしていることで親近感が生まれやすい。例えば、筆者がヒアリングを行ったある保育所では、利用者が自主的にメーリングリストを作成し、育児に関する情報交換を行っている。

一方、デメリットは、徒歩、自転車、自動車通勤する場合には特に問題とならないが、鉄道やバスなど公共交通機関で子どもと一緒に通勤する困難さである。自分ひとりでもつらいラッシュ時の満員電車に、子どもを連れて乗車するのは、肉体的にも精神的にも負担が大きい。通勤時間が長い人ほど、勤務先に保育所があることで保育時間の間中、仕事に従事できるメリットも大きければ、子どもと一緒に通勤するデメリットも大きいと言える。また、利用者数が安定せず定員割れを起こしている事業所内保育所は少なくない。子連れ通勤を負担に感じ、より送迎・通勤に便利な保育所へ入所するまでの「つなぎ」として利用する者が少なからず存在するためである。そのため、子どもの成長に必要な、同世代の子ども同士ふれあいが満足に得られないという指摘もある。

### 3. 事業所内保育所利用者の意識

#### (1) 調査の概要

事業所内保育所の利用実態を把握する為、事業所内保育所利用者に対してアンケート調査を行った。調査概要を表1、回答者の基本属性を表2に示す。

表1 事業所内保育所利用者アンケート調査概要

調査対象者	3事業主・5保育所（千代田区、港区、文京区、目黒区、大田区に立地）の利用者
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人属性、世帯構成</li> <li>居住地選択理由</li> <li>保育所への送迎の状況</li> <li>子どもと一緒にでの移動に対する意識</li> <li>保育所に対する意識</li> <li>事業所内保育所利用に関する意識</li> <li>保育所の立地場所別選好</li> </ul>
調査方法	各保育所の担当者に、利用者への配布・回収を依頼
調査日	平成22年1月21日配付、翌週回収
回収数	26/配布数56（回収率46%）

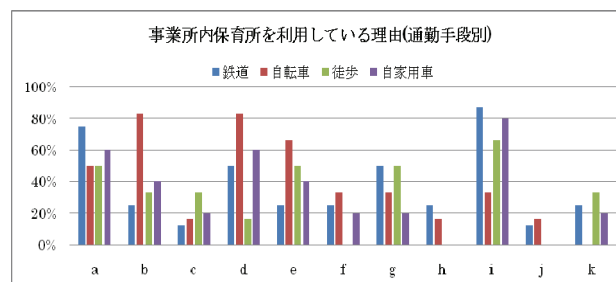
表2 事業所内保育所利用者アンケート回答者の属性

性別	男性5名、女性21名
年齢	20代5名、30代18名、40代以上2名、不明1名
通勤交通手段	鉄道8名、自転車6名、徒歩6名、自家用車5名、不明1名
通勤時間	0～20分10名、20～40分7名、40～60分4名、60分以上3名

#### (2) 事業所内保育所利用者の実態と意識

現在居住する地域やまちを選んだ理由を尋ねたところ、「自分の通勤に便利だから」を挙げた人が約7割と最も多く、次いで「配偶者の通勤に便利だから」を挙げた人が約5割であり、「保育所や学童保育施設が近くにあるから」を挙げた人は約2割であった。これより、事業所内保育所利用者は、職住近接を重視して居住地を選択した人が多いことがわかる。

事業所内保育所を利用している理由については、全体では「自宅近くの保育所が満員で入園できなかったから」が最も多かった。通勤交通手段別にみると、鉄道通勤者、自家用車通勤者は「i.自宅近くの保育所が満員で入園できなかったから」、「a.勤務している会社の保育所だから」が多く、自転車通勤者は、「b.子どもが近くにいるので安心できるから」、「d.保育時間内めいっぱい働けるから」、「e.勤務先のそばにあり、送迎や通勤に便利だから」が相対的に多かった（図1）。



- a. 勤務している会社の保育所だから
- b. 子どもが近くにいるので安心できるから
- c. 子どもと一緒に通勤できるから
- d. 保育時間内めいっぱい働けるから
- e. 勤務先のそばにあり、送迎や通勤に便利だから
- f. 子どもと一緒に過ごす時間をできるだけ長くとりたいため
- g. 保育士や保育の内容が気に入っているから
- h. 施設や遊具が充実しているから
- i. 自宅近くの保育所が満員で入園できなかったから
- j. 子育てに対する同僚の理解を得やすいから
- k. その他

図1 事業所内保育所を利用している理由

子供と一緒にでの移動に対する意識に関する計8つの質問に対して、「1:全くそう思わない」～「5:とてもそう思う」の5段階評価の平均値を図2に示す。「b.子どもと一緒に通勤するのは面倒だ」および「f.保育所への送迎時、子どもと一緒に移動する時間はできるだけ短くしたい」の数値は、鉄道通勤者で最も大きく、自家用車通勤者、自転車通勤者、徒歩通勤者の順に小さくなった。自家用車通勤者については、今回のサンプルは通勤時間が長いことが原因と考えられる。自転車通勤者、徒歩通勤者は、子連れ通勤をそれほど苦に感じていないようである。子連れ通勤の負担が最も大きいと考えられる鉄道通勤者のみを対象に、「a.自宅から最寄駅までの最短ルート上」、「b.自宅最寄駅」、「c.勤務先

最寄駅」、「d.事業所内」、「e.その他」の5つの選択肢のうち、どこに立地する保育所が望ましいか、上位3つまで回答してもらったところ、第1希望は「a.自宅から最寄り駅までの最短ルート上」が大半で、「d.事業所内」と答えた人はいなかった(図3)。事業所内保育所を実際利用している人は、事業所内保育所が最良の選択とは思っていないことが伺える。

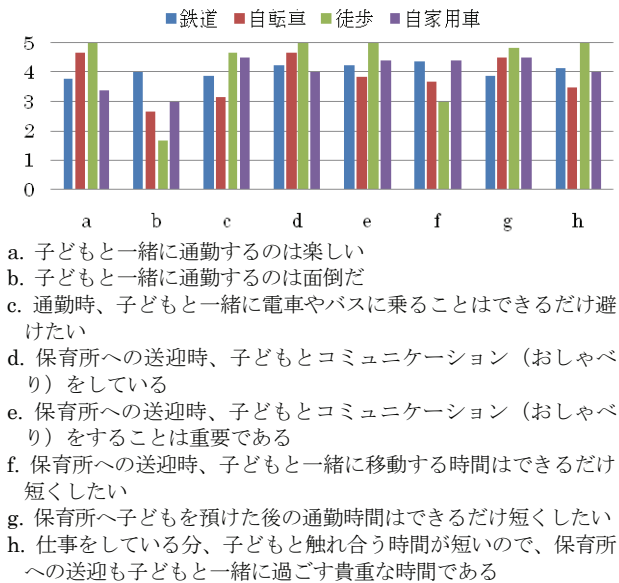


図2 子どもと一緒にでの移動に対する意識

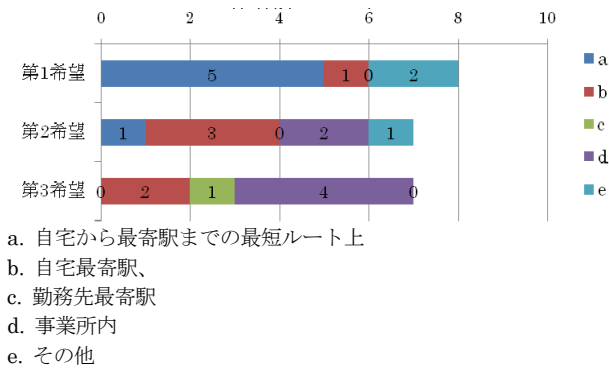


図3 鉄道通勤者の保育所の立地希望

以上の分析から、あくまでも鉄道通勤者の一番の望みは保育所が自宅近くにあることで、事業所内保育所の利用は必ずしもポジティブな選択ではないことがわかった。ただし、保育所に対する意識を尋ねた質問においては、保育内容に関する満足度は比較的高いという結果が得られた。

#### 4. 事業所内保育所非利用者の事業所内保育所に対する意識

##### (1) 調査の概要

では、現在、事業所内保育所以外の保育所を利用して

いる人には、事業所内保育所はどう捉えられているのか、どのような属性の人ならば利用したいと感じ、利用したくないとすればその人にとって何が制約となるのか。これらを明らかにするため、一般の保育所を利用している人へのアンケート調査を行った。調査は、インターネットリサーチ会社に委託し、そのモニターのうち条件に合致する人を対象とした。調査概要を表3、回答者属性を表4に示す。鉄道通勤者の割合が高く、回答者の約8割が30分以上かけて通勤している。

表3 一般保育所利用者アンケート調査概要

調査対象者	事業所内保育所ではない保育所を利用し、東京23区内に通勤しているワーキングマザー
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人属性、世帯構成</li> <li>居住地選択理由</li> <li>保育所への送迎・通勤の状況</li> <li>子どもと一緒にでの移動に対する意識</li> <li>保育所に対する意識</li> <li>保育所の立地場所別選好</li> </ul>
調査方法	インターネットアンケート(楽天リサーチ株式会社)
調査日	平成22年1月30~31日
回収数	299

表4 一般保育所利用者アンケート回答者の属性

年齢	20代12%、30代72%、40代以上16%
居住地	東京都69%、神奈川県12%、埼玉県11%、千葉県7%
勤務地	都心5区(千代田区、中央区、港区、新宿区、渋谷区)49%、他18区51%
通勤交通手段	鉄道76%、自転車13%、徒歩7%、自家用車2%、バス0.3%
通勤時間	0~30分18%、30~60分38%、30~90分34%、90分以上7%

##### (2) 事業所内保育所の利用意向

2(2)で整理した事業所内保育所のメリットおよびデメリットを説明し、事業所内保育所を利用したいか否かを質問した。回答を通勤手段別にみると、徒歩通勤者は「利用したい」が7割超、鉄道通勤者は「利用したくない」の割合がやや高い(図4)。さらに、鉄道通勤者で「利用したくない」と回答した人は、「利用したい」と回答した人に比べて鉄道乗車時間が長い結果となった。また、事業所内保育所利用者への調査と同様に、鉄道通勤者に対して保育所の立地に関する希望を尋ねたところ、「a.自宅から最寄り駅までの最短ルート上」が有力である一方で、1割の人が「d.事業所内」保育所を第1希望に挙げた(図5)。さらに、事業所内保育所を第1希望と回答したサンプルの勤務時間は、9時間以上の人が34%を占めた(図6左)。回答者全体では勤務時間9時間以上の割合が16%であることと比べると、その高さがわかる。一方、通勤時の鉄道乗車時間をみる

と、乗車時間が20分以内と比較的近距离の層が44%を占め（回答者全体に占めるこの割合は26%）、乗車時間が1時間以上の人は皆無であった（図6右）。

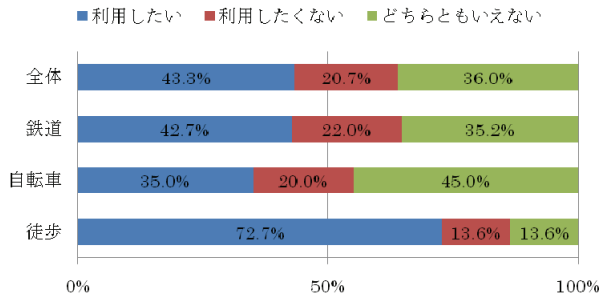
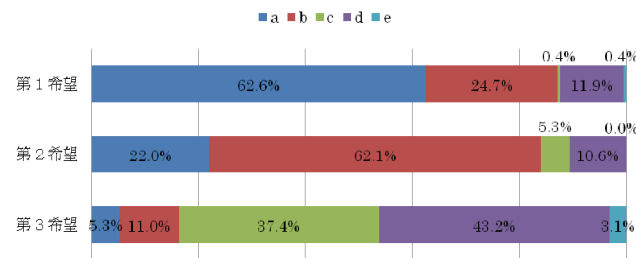


図4 事業所内保育所の利用意向（通勤手段別）



- a. 自宅から最寄駅までの最短ルート上
- b. 自宅最寄駅
- c. 勤務先最寄駅
- d. 事業所内
- e. その他

図5 鉄道通勤者の保育所の立地希望

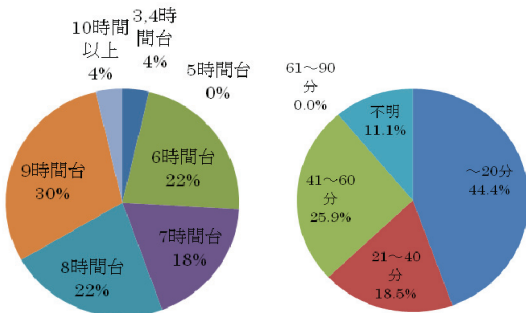


図6 保育所立地の第1希望が「d. 事業所内」の鉄道通勤者の就業時間（左）と通勤時鉄道乗車時間（右）

#### 4. 結論

以上の結果をまとめると、事業所内保育所の利用者は、勤務先の近くに住んで職住近接を実現している人が少ない。そして利用者のうち子供と一緒に鉄道通勤している人は、本当は自宅近くの保育所への入園を希望している。かつては鉄道通勤していたが続けられず近所に越した利用者や、4月になると地元の認可保育所の抽選に通ったからと転園する利用者もいるという。一方で、今利用していない人の中には、事業所内保育所があれば

利用したいという人もおり、その特徴としては、長時間勤務、徒歩通勤、鉄道通勤では乗車時間が短い、ということがわかった。

現在、事業所内保育所の利用者は、事業所内保育所を設置する余裕のある企業に勤めている人に限られている。世の中では待機児童があふれているにも関わらず、事業所内保育所は定員割れを起こしているところが少ない。事業所内保育所を、ただの次善策でなく、1つの保育所ストックとして生かすことができれば、微々たる効果ではあろうが待機児童解消に向け前進できる。子連れ通勤の困難さが弊害となるのなら、時差通勤やフレックス勤務制、自動車通勤を許可する、勤務先のより近くに住むための住宅手当を出すのが有効であると考えられる。

今後を考えると、本来、待機児童策という役割のみを考えれば、事業所内保育所は無くなるのが理想ではあるが、その為には保育士の待遇改善、保育所の増設、ひいては財政状況の好転が必要であり、短期での実現は難しい。ならば、将来的な可能性の一つとして、事業所内保育所の「地域の保育所」化が考えられる。具体的には、(1)待機児童の多い地域にある企業へ事業所内保育所設置補助金を給付し、自社社員の子息のみならず、地域の待機児童をも吸収する、(2)複数の近隣企業どうしが提携し、施設や内容ともに充実した事業所内保育所を設置する、といった手法があろう。(2)に関しては、ある企業の事業所内保育所を近隣他社社員にも公開している事例はあるが、一般的ではない。いずれも、現実性を持たせるには諸制度の見直しが必要ではあるが、実現すれば、事業所内保育所の利用者が増加し、設置企業にとっては採算がとれるようになり、利用者にとっては仕事を続けられ、その子どもがより多くの人と触れ合えて社会性が育つ、win-win の関係を築くことが可能となるのではないか。

#### 謝辞

アンケート調査に御回答頂いた保育所利用者の方々、事業所内保育所を設置している企業の御担当者の皆様に、紙面を借りて謝意を表します。

#### 参考文献

- 1) 的場康子：事業所内保育所の現状と課題, Life Design REPORT 2004.3, pp.16-23, 2004.
- 2) 久木元美琴：大都市都心部における事業所内保育所の意義と課題, 経済地理学年報, 第52巻, 第2号, pp.82-95, 2006.
- 3) 山極清子：資生堂事業所内保育施設「カンガルーム汐留」, 佐藤博樹ほか, 子育て支援シリーズ2 ワーク・ライフ・バランス, pp.55-59, ぎょうせい, 2008.
- 4) 住友商事株式会社：社会と環境に関するレポート 2009, 2009.